THE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

驛遞局認可

明治十九年八月十五日

定價金四錢

女學雜誌

第三十三號

每月三回發行

績文舍

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

目錄

●〔女學叢誌〕演劇の改良●〔中外新報〕十四件●〔學藝一斑〕水の事○理學一斑●〔對譯〕●〔列女傳〕越後仙吉夫婦の傳（畢り）●〔雜記〕英國の演劇○造作なし貸家○洋服裁方の原理○西洋禮式一斑○反古賜●〔新作物語〕巢守の妻三回（春の夜主人）●〔家政要報〕六件●〔御伽草〕美女醜男○七に置巾候○數學問題及答式●〔寄書〕婚姻弊害論○歌數首

◎女學叢誌

○演劇の改良

演劇の改良ハ社會の改良に必要なり而て余輩演劇の改良を必要なりとする理由ハ啻にその野鄙猥褻なるがゆゑのみにあらざるなり從來その脚色の上に行はるゝ道德の改良を行はんといふにあり何となれば從來の演劇ハ盡く封建時代の道德を骨子となし之を裝ふに未開の風俗を以てしたるものなれば今日社會の改進に妨げあること少なからざるなり尤も歐米諸國に於ても多く古昔の風俗を演する事にて現に英國にありてハグリーキ古代の演劇流行せりとさへいふなるに封建時代を距ること漸く廿年ばかりなる我が日本に於て僅か廿年前の風俗を演すればとて何程の妨となるべきといふものあるべけれ共これ是れ文野の事情に暗き說といふべきのみ歐米諸國の如き文明社會にありてハ如何に野蠻の道德風俗を演すればとて眞逆に野蠻風に化せらるゝものとてハ一人もあらざるべけれども我が日本の如きハ今將に開明に赴かんとして尙は未だ未開の域を出立すると能はざるの社會なるがゆゑに之を譬ふれバ花の都に旅立んとして旅裝の最中なる所へ親戚知友寄集ひて土語鄕音の歡話に眞實顯れたる鄙俗の欵待をなしたらんにハ誰かハ住慣し產れ古鄕を戀しと思はざるものゝあるべき假ひ旅立を思ひ止まらざるまでも道の步の捗らざるハ尤も至極といふべきなり今の世の中を一通り見渡すときハ人の頭部の外形こそハ斬切束髮と改まりつれその內部なる腦裏の道德ハ取りも直さず封建時代の遺物なり男子尙は然り況や女子に於てをやましてチヨン髷鍋蓋の人々に於てをやかゝる有樣なる社會に於て己が女房ハ敵の娘なればとて一應の相談もなく離緣をいひ渡す頑固男あれば夫に賴まれて實父を殺さんとする不孝女あり歸天齋正一も及ばさる程の手際を以て我が子を主人の身代りに立る無慈悲の親父あれば實の詮議を口實として花街に流連する放蕩息子あり娘の厭ふ婚を强る壓制の母親なれば回向の爲に寫したる畫像にあらずとて悲む淫奔娘あり酒色に耽

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

りて御家の騒動を惹起す殿樣あれバ其盛に乘じて富貴を求むる奸臣あり切取强盗ハ武士の慣と心得る士人あれば年に似合ぬものと共に入水する町人あるがごとき不都合極まる脚色を演したらんにハ誰かハ舊幕時代を難有しと思はざるものゝあるべきさればこそ余輩のいふ演劇の改良とハ脚色の上に行はるゝ道德の改良をいふにありてこれ社會の改良に必要なりとする所以なり今や紳士學士の首唱に由り演劇改良會といふが起りたり是より我が演劇ハ改良の緒に就き益々改良を加へて遂に東洋の文學技術の上に於て完全無缺のものとならんこと余輩の疑はざる所にして今より樂みに思ひ望を改良會の會員に屬するなり然も演劇の一方に於てのみ如何に改良をなしたればとて世の觀劇者の趣味に改良あらずんば恰も下戸に酒を强ひ上戸に餅菓子を勸むると一般なる結果を生じ演劇改良の實際に行はるゝや否ハ余輩甚だ懸念する所なり故に余輩ハ一方に於てハ益々演劇の改良を望みまた一方に於てハ廣く觀劇者の趣味に改良あらんとを希望して止まざるなり而して演劇の改良ハ既に改良會の起るあり余輩一先安心して可なりと雖も他の一方なる觀劇者道德上の改良に至りてハ日本社會の會員たるものゝ各々之が任に當らざる可からざるなり

◎中外新報

○音樂師を召させらる　去る十日午後三時澳國帝室附屬音樂師レメンコー氏を宮中に召させて音樂を聞召させたる由に承はる(本月十二日日々新聞に出る)

○米國大統領　クレヴランド氏ハトルコ帝より同氏の新婚を賀するためにとて夫人に物品を贈らせたりしを書面の祝詞を受くるとハ妨げざれども物品を受くるとハ米國の憲法を犯すに當れりとて固く辭謝せられたりまた同氏ハ來年倫敦に於て開く米國博覽會の會長たらんとを承諾しその開會式ハ白院より(大統領の官宅)電報を以て行ふとに定められたる由英國クヰーン新聞に見えたり

○鹿鳴館の奏樂　今度來遊のレメンコー氏ハ歐洲にても第一等の伶人にて英國女皇及び墺國皇帝の特別音樂師たりとの事なるが最も胡弓の名人なりと聞く去る十日の夜鹿鳴館の樓上に於てその絶技たる胡弓を奏したる景況を日々新聞に記載したるを見るに同夜ハ午後七時三十分を以て聽者を席に着かしめ八時に奏樂を初めたり炎暑の候なれども晴天といひ殊に同夜ハ涼風も爽快なりければ聽衆も三百餘人の多きに至り座

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

すべき餘席もなきほどなりしが外國人の多かりし割にハ日本人の少なかりしハ未だ洋樂の耳に適せざるがゆゑなるべし第一席ハリユクストーン氏の洋琴(ピアノ)の奏樂にてその妙なるハ聽衆の感嘆を博したり氏ハいまだ壯年の人と見受けたるがその技藝の超越たるハ一しほなりき右畢りてレメンニー氏ハ胡弓を携へて出席し拍手喝采の中に會釋したりその人ハ中年を越えたる年輩にて頭は半ば禿げ眼光鋭く一見して技藝の達人たる容貌を備へたりリユクストーン氏のピアノに合奏して絶技の胡弓を奏したるに序破急の調子の妙なる聽ものをして茫然たらしむるに及べりこの合奏ハ二席の後にて第四席ハリユクストーン氏のピアノ獨奏第五席ハレメンニー氏胡弓獨奏最後の第六席ハ合奏にてレメンニー氏得意の秘曲を奏し大喝采を得て畢りを告げたり時に午後十時なりき

○婦人の法學家　米國に於て試驗を受け裁判所の許可を得て法學士の事業に從ひ居る婦人の數ハ目下四十八人よてその中法律新聞および雜誌の編輯に從事するものありこの他にも免許を受けたる婦人多かれども盡とく事業を取るものゝみにあらずこれ等の婦人ハみな高等法院の免許を得ざるものにて中にハ代言人を業とするものもあり扨て米國に於て婦人に免許を與へたるハ千八百六十九年(明治二年)アイオワ州に於て白人種にして廿五歳以上の男よ限るべしといふ法律を改め白人種および男に限るべしとの文字を削除したるを以て初めて婦人にして此事業に進入するの路を開きたり

○演劇改良會　今度左に記載する方々が發起會員となりて起さるゝ同會ハ既に伊藤伯爵大隈重信君を始め朝野の貴紳數十名の同意者ありといへば日を追ふて盛大に赴く事と知らるるなりその趣意書中よある同會の目的といふハ(第一)從來演劇の陋習を改良し好演劇を實際に出さしむること(第二)演劇脚本の著作をして榮譽ある業たらしむること(第三)構造完全にして演劇其他音樂會歌唱會等の用に供すべき一演技場を構造すること等の三箇條なり扨て發起會員ハ

井上馨。穗積陳重。外山正一。和田垣謙三。依田百川。高木兼寛。矢田部良吉。矢野文雄。中上川彦次郎。福地源一郎。藤田茂吉。櫻井錠二。菊地大麓。箕作佳吉。箕作麟祥。森有禮。齊藤脩一郎。澁澤榮一。重野安繹。末松謙澄。三嶋通庸。高崎五六渡邊洪基

○代々の長壽　倫敦のランセット新聞社の通信者ハ此頃百二十歳になれる老人の生命保險をなしたる由よてその親ハ百

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

十歳に怪我をなして死し祖父ハ百廿六歳にしてまた怪我をなして死し曾祖父ハ百三十三の長壽を保ち今の老人ハこの曾祖父を能く承知し現に從弟の從弟のまた其從弟ありといへば都合七世に渉れる長壽なり

●舞踏臺　海軍水交社にてハ今度その構内に舞踏臺を設くる筈にて巳に工事に着手したりと十日の時事新報に見ゆ

●美術學校　文部省にてハ今度小石川なる帝國大學の植物園内に美術學校を設立せらるゝとの噂ありと是も去る九日の時事新報に見えたり

●學生の數　獨逸國伯林大學校に於て法律學生の數ハ千八百六十年にハ三百四十八人なりしが千八百八十一年にハ千四百四十一人となりまたライプチヒ大學校に於てハ千八百六十二年に二百五十七人なりしが千八百七十一年にハ千百三十人に增加せり

●女學者　米國にて當時文人學士なりとて人に知られたるものゝ中新英國敎育雜誌へ論說若くハ詩文を投書する婦人ハアトランチック月報にて名高き詩人エヂストーマス。詩人にて文學批評家マリーブレーキ。文學書の著述家モード、ギレット。ブヰリップ。ポストングローブ新聞の記者エステルハッチ孃。文學批評家グーディル。高等女學校敎員ハリエットパーソン。著書家クラーク。オリーブダナ。アライスゴルンセイ。ルイサホプキン。コチング孃。エマクラブツリー孃。アデーナイト。文學批評家エマショー。學校敎員カーヴァ孃詩人ルシーチリー孃等の諸女丈なり（以上二件七月一日米國敎育雜誌）

●納涼場設置　貴顯紳士の發起にてこのほど埋立となりたる中洲町へ京都の四條河原に模擬して賑かなる納涼場を設けんと頻りに計畫中のよし

●政治上の女帽　歐州にてハ婦人の衣服帽子などの流行烈しく日々競ふて新形新工夫を出すことあるが六月廿九日の女皇新聞に目下倫敦にて流行する新形の中最も珍らしきハこの頃パリよりイサベラ婦人の店に屆きたる政治上の女帽（ポリチカル、ボチット）といへる各種の帽子なりこれハ近日行はるる國會議員の選擧會を當て込みたるものと見えその中にて遒罌草女帽といふは店主の好にて注文したる新形のよしなるが黃と白との遒罌草の花と葉とを雜せ合はしまた黃と白との極薄き紗を蔽ひたる頭飾りのある帽子なりこの帽子の反對に立つ黨派の帽子といふハ即ち自由黨自治黨の帽子にして程よく染りたる綠靑色の紗に酸漿草の葉と穀物の花とを結び附けた

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

るグラッドストーン黨の首飾りといふが附けありて殊に見事なり聯合黨の帽子といふは見受けざるが嘸かしチヤムボルレイン氏の黨流は店主たるイサベラ婦人を恨むることならんとありたり英國の貴婦人は選擧會の前などには男子と共に已が黨流の人の選擧せられん事に盡力して甚だ熱心なりといふが此新聞を見ても亦其の氣風の行はるゝ一斑を知らるゝなり

◯九の數　茲に不思議なるは九の數に乘ずるに如何なる數を以てするも其の得るところの十以下の數字を合すれば必ず九となるなり譬へば二を乘ずる時は18となる此十以下の數卽ち1と8とを合すれば九となり三を乘ずれば27となる此2と7とを合すれば九となるなり扨てまた十一を乘ずる時は99となる此十以下の數を合すれば18となるまたその1と8とを合すれば九となるなりかくの如く如何なる數を乘ずるも皆同じ結果を得るは一寸不思議なり試み給へ

◉或る田舍新聞　に本誌へ掲くる洋服裁方の理原と題するものをその儘記者の記したる前文までソックリ生捕となし又僕婢の職掌と題するものを其の儘掲げたり雜報中の短きものは兎も角この比の炎天に汗を拭ひながら飜譯して每號續出する續きものをものするとはさりとは餘り甚し

◎學藝一斑

○水の事（前號の續き）

第四○扨て地球上の水量は斯のごとく夥しきまとなり日沒などに大空を望むときは種々樣々の雲ありて甚だ美麗しきことなるがこれ皆大陽の力を以て絶えず吸起すが爲めに水塵となりて騰るなり斯く日々に吸上る水量は世界中大小の川々を流るゝ水量の四倍よりも尚ほ多しといふ

これを試驗して見んとならば棒の先きに試驗管を保ち得るほどの張金の附きたるとガラス管、アルコールランプ、ガラス板等を要するなり試驗管をランプの火の上に置きその右あるひは左の方に曲りたるガラス管より來る蒸氣の突當るやうにガラス板を置くときは恰も雨となりて降ると同じく收縮すべし管中にて泡の立上り上の方にある冷き水の下る理由はガラス板に由りよく知られ雨露等の降る理を解すべし

第五○右に述べたるがごとく大陽は熱帶の所にて大なるランプとなり絶えず水塵を吸上げ熱を受けたる空氣は水氣を帶びて兩極の方に追ひやられ寒冷に遇ひて雨となることとなり殊に水は斯くなり易きものなるがゆゑに同度の熱を受けたる他の

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

流動物の二倍また金鑛屬の十倍を吸上げらるこれ鉄瓶にて湯の沸く時間を考へても解る事なり（以下次號）

○理學一班（前號の續き）

總て工業技藝といふは天然物を離合して作爲することとなるがゆゑ工業技藝の上に於て天然物の性質を知ること必要なりとは既に詳述したりしが人力を以て總て天然の事物を直接に支配することは爲し得べからずといへども若し天然の事物の性質と力總て出來事の上に定りたる順序を熟知したらんには我々の爲めに害となることをば之を避け益たらんとをばこれを利用することを得べきなり

假令へば人力を以て季候を改めあるひは植物發生の順序を變更ずること能はずといへどもこれ等に就き自然の順序を熟知したらんには人力を以て蒔附および收穫の手順を整理するを得べしまた人力を以て風を起さしむること能はずといへども風の起りたるときに當りその力を利用して船を運し風車を轉ずることを得べし人力を以て電光を捕ふること能はずとも電氣學に通じて製造する避電線の方便に由り之を無害となすことを得べきなり俚諺にも豫報は豫備にありといへり自然の事物に接するには自然の理法を學ぶ事將來に發ずる豫報なり

◎ 對譯

○泰西箴諺の直譯

（甲）㊀商業㊁の㊂二（は）㊃稀れに㊄一致する　（乙）㊀餘り㊁多くの㊂料理人（は）㊃肉羹（を）㊄損ふ　（丙）㊀飮もの㊁入込む㊂時㊃智惠（は）㊄出立する

MAXIMS & PROVERBS.

泰西の箴諺

（甲）　Two of a trade seldom agree.
㊂ ㊁ ㊀ ㊃ ㊄

〔意譯〕　同業の一致する事は稀なり

（乙）　Too many cooks spoil broth.
㊀ ㊁ ㊂ ㊄ ㊃

〔意譯〕　料理人が多過ぎてソップが腐る

（丙）　When drink enters, wisdom departs.
㊂ ㊀ ㊁ ㊃ ㊄

〔意譯〕　酒を飮む時は智惠は留守

HYAKU NEN ME.

Kyōwa 2 nen gisi 47 nin no hyaku nen no hōe wo osamesi ni, sono yoku tosi Kira uzi no 2 hyaku nen no hōe wo nasu to iū yue, naze to toitaru ni sumibeya nite mitsukeraretaru toki ga *hyaku nen me.*

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○越後仙吉夫婦の傳（前號の續）

お常ハ本夫の旅疲れを心をつけて慰めながら幾度か送りし其金のやゝ嵩だかになれる事とおのれが得たる分をも倶に預けし概略を告げ終り語を改めてさて云ふやう愚なる妾のさかしだちて斯云ハば差出がましとも思されむが斯ばかりの資本あれば今ハ人なみなる商ひを營むとも易げなれど此地に久しく足を止めむとの豫定ならぬからハ外見を繕ひて物々しき店を設けむハなか〳〵惡かるべくよしや横濱にありし程の憂さ辛さをふたゝび見るとも心の裡の今の安さハ似るべうもあらねバ猶此儘に妾ハ黒髮の細きたづきを賴みて同じ筋よ世を送らむと思ひなりぬるを如何との思ひ給ふといへば仙吉もうち微笑そろハ我よりこそ云ふべき語なれおのれも歸るさよ熟く夫等のことを思ふに卑しき業に身をならせバ心遣ひハいと淺くて得るものハ悉皆積そ貯ふるとも容易けれどなまじひに人なみ〳〵の商ひ營まむとせば心苦しきと猶多かるべしされど其方ハ早うかゝる事よ倦厭て辛さに堪へずとや云ふらむなど思ひ煩ハずしも有らざりしにいち早く心の誠うち出て語られしこそ嬉しけれおのれハ熊本のかしこき山阪を兵粮運ぶとて車おしやりもしつ彈藥をかしこの責口にとく送れとて打かつぎて駈走りもしたれバ力役よハなれよたり砥の如しとかいふばかり平坦なる東京の中をかけ走るハ憂しとしも思ハれじ今こゝにも路費の餘りあれば腕車二輌造るにハ不足もあらず一輌ハ自ら引き一輌ハ人に引かせて同じ道に怠らずハこよなき益あるべしと思へばよしなき心遣ひハせずもがなとて是より勵むとまた初めに變らず月日ハ梭を放るがごとく昨日と過ぎ今日と暮れて本年六月の末つかたになりぬるに夫婦の者の十年かほどの勞きハ積り〳〵て一千餘圓となりしかば今ハ故郷の空よ思ひたつともけしうハ有らじと先づ此概略を村長が便につけて告知らせ置きお常ハ根津の里をたちて本夫とゝもになりぬ遊女の浮ゝる心にも多年へだてなく物したるハ母姉にも別るゝこゝちに涙ながら見送りつゝ心ばかりの餞するもあり况て忠誠やかに萬に行届たりつとて悦び居たる樓主の妻も金にもの取添へて取らすれば貯へたる衣類とこれらの物とにて二輌の車にも餘るばかりなるを引續けて出ぬるハ遊女のさるべき人よともなハれて此河竹の流れを出るにもまして賑ハしければさる方よ見紛へて立止り見るもありけり斯て仙吉ハ是等の物と故鄉の知る人々によかれ贈るべき土産をも數々の附物に取認めて船便につけて出し置き旅の準備いと淸ふに

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

して我車にうち乗つゝ板橋の宿のはじめやどりたる家に行て云々といへば主人ハ出迎へて本意とげて故郷へ歸る悦びを返す〳〵いひ出村の檀那も斯と聞せられなば如何滿足ならむまだ彼方へハ音づれ給ハざるにやなどいふにお常ハ先何程か金包みたるとり出て前におき曩にお由をよきかたに縁づかせられし時參らすべき筈なりしかど行先の心もとなさと歎きとにハい紛れて只に打過ぎたるハ田舍人の心づきなさと免させ給へかしなどいへば主人ハ此禮をくりかへし述つゝ只管出世を祝ふ先ん夫婦ハよき程ゐ別れを告て出村方へ行ぬおれ珍ふしやお由の親御の見えられしとて欵待いと懇篤なり夫婦ハかはる〳〵に是までの身のたゝずまひ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

より漸く歸るべき時に遭へるあらましを語れば主人も妻も其心づくしの普通ならぬとを褒あへりお常の心には疾お由の出てよかし斯富有ある家に養はれて深き窓にありなれたれば心驕のして母に早く逢むとも思はぬよやなど人知れず思ひ乱るれど然るとはなくて化装し衣着のへなどに時移るなるべし軈て出來るを見ればあたりも赫くばかり我娘とは思ひなされぬ迄にわてよ美麗しうなれるにはお常も惑のれて霎時は語さへ絶たるも道理なり主人は酒肴とり出させて夫婦に盃すゝめつゝ扨いふやう此お由を養ひし後ゆくりなく男兒二人まで擧けたれど兼て契りたる如くお由に聟とりて此家繼するとは毫違ふまじければ其は努々心に懸給ふなといふに夫婦は主人の志しの厚きを忝けなみつゝ少し微音になりていふやう是なるお由を此方に賴み參らせし後十年が間は只故郷人に再び逢ふやうにならむとのみ思へば堅く誓ひて山鷄の尾上隔てゝぬるとかいふ樣にのみ打過たれば子といふものは絶てわるとなしよしや此後擧けたりとも家繼くほどの間にはあふべくとも覺えず斯申さばいと無禮とは思されむが御子二人おはするうち何れなりとも一人を賜るまじきか鄙の境の物足らぬ勝なる家にはあれど些の田地持山の類の預けたるは取戻しもすべく假に讓渡し置つるは買も返しつべければ五七人の者の活計には心おかるゝ程の事の侍らぬを爭で許させ給ひなむやと云へば主人は此人知れぬ誓ひの堅きに愛で一人子を人に養はせて行末樂みなきを憐み頓に弟兒を參らすべしと約しければ仙吉夫婦は限りなく悦びつゝ暇を告げて歸りゆきぬ斯て後故郷へ歸り着てもとの家に戻りたる由出村かたへ告おこせて彼貰うけたる兒の迎に遠からず改て出京すべしといひ越せりとのこは先の月の初の事にてうける物語にはあらず仙吉の心懸もいと愛たけれどお常の側より渤るとなくば爭か廢たる家を興す此大事をば成遂ぐべき實に奇特なる物語りならずや(畢)

◎雜記

○英國の演劇

前號にも英國演劇の批評を譯出したりしが今また同地の新聞に揭げたるを見るに近頃ロヤルテヰー劇場において演したるジヤツクといへるは滑稽演劇なるよしなれども我が邦の如く野鄙なるものにはあらずしてその趣き大よ異りいと高尚なるとおろわりと覺ふるなり原佛國の院本より翻案したる新作の由にてその筋の大略をいはんに二人のホヘミヤ人ありて互に

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

親しき友垣を結び居たりけるがこの二人にて一人の娘に想を懸け美術館にて三人出會するの場より初まり遂にその婦人の選ぶところに隨ひ何れにても婦人の契約者と定むべしと事極り婦人ハ從弟なるノエルといへる美術家に相談して之を取定めたりしが不幸にしてそその婦人の見識の足らざりしのノエルの忠告の信切ならざりしのその男ハ私欲深くして義を思はず且つ半可通ものなるに引かへ今一人のジヤツク、ピーミシユといへるハ情深くしていと高尚なる性質にてまた美術家なりけるが技藝もおさ〳〵若人仲間にて人に讓らさるほどのものなりける扨てこの三人とも初幕のところにてハ暮し向きいと貧しといふにハあらざれどもまた富裕にもあらざりしがこゝに一老人ありて彼のジヤツクを訪ひ來り一面の美畫を寫さんことを依賴して出行きたるその途にて頓死せり初幕の畢る少し前に老人の家事を取扱へる法律家より頓死の報知ありて忽ち三合音樂（ツライオー）を以て第二幕に移れりセツキスといへるところなる彼の老人の住宅の場にして遺言書（豫て認めをきたるものならん）に由て遺産分配のところなり斯くて彼の婦人の從弟たるノエルといへるが老人の相續者と定り俄かに富有の身となりしを以て彼の婦人ハ勿論その契約者と定りたる輕薄男子もとも〳〵追從諂諛してノエルを取卷き彼の男の古き親友なりけるジヤツクには見向きもやらざるをジヤツクハ固より意に留ず却てノエルが富有の身となりたるを賀するのミにて人の暴富を羨むものならねどこれより先きマーシといへる一婦人に想を懸けその婦人もまたジヤツクを思はざるにハあらねども輕々しく行末を契りて互ひに出世の妨げとなるなどの事ありてハその時悔ゆるも詮なかるべしと思ひ計りてこれを色にも顯はさずいとすげなく應へけるにぞジヤツクいよ〳〵心を惱ましける去るほどにノエルハ彼の佞人等が媚に騙せられて驕り散らし節角得たる財産を間もなく消耗つくしたりかくて第三幕即ち終結の幕に至りて彼のマーシといへる婦人ハジヤツクを見どころありと見込たるにや初のすげなきに引かへジヤツクを慕ふばかりになりければ互に思ひ思はるゝ中となり後を契りあひしかどもいまだ世渡る資本の定らざれば契約を履行する日の來るハいと長かるべしと互にまちかこちける折しも彼の老人の遺せし第二の遺言書を發見し巨額の財産をこの實貞なるジヤツクに讓るとのことにて思ひもよらぬ財産を得て喜び合へるところにて演技を終りたり作意といひその筋といひ批難すべき廉はなく滑稽のところも

五百三十七

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

上手の集りとハ云へ能く演じたりしと見ゆ

○造作なし貸家(西洋家屋裝飾の心得)つゞき

富有ならん人ハ一切の裝飾をその筋の商人に請負せしむるこ と甚だ便利なり若し商人に請負せしむるとせば室具匠および家屋裝飾商人等ハ何時にても出來り家の大小廣狹によりて見積の直段書を出すべしこれ等の見積書によるときハ僅か六室位ある家屋と寢室のみにても十二あるひハ十四箇もあるがごとき住家とハその費額に大差あるハ勿論の事なれども大体不相當なることハあらざるなり併しながら、(凡そ世の中の事ハ何事にも併しながらといふ言葉の附屬し居るものとこゝろ得給へ)世の中の人ハ盡く振出し手形を以て銀行より諸拂をなす人のみにあらざれば自分自身の考へを以て見積書を製り自分自身に買調ふるの心得甚だ必要なりされバまづ室の數により各々その間に隨て裝飾をなさんにハ家具屋の目錄を多く取集めてこれを引合し夫々の好を定むべし可成遺漏のなきことを勉むべし初に漏らしたることありて跡にて別にこれのみを買調ふるときハ甚だ高價となることとなり嘗て年若き婦人の調べたる見積書を見たるに初ての世帶持と見え金錢にハ厭せず外形のみに心附き經濟上のことにハ少しも意を用ひずと思ハれたり傍らにありける老婦がこの書附を見て何れの間にも階段の舖物といふ箇條なしさらば平家造りにやと不審しみゐるに彼の年若き婦人ハいやとよ階段より上ハ後に至り追々に調へたらんにハ却て經濟にもやと思ふがゆゑなりと答へたりしが後に聞けば却て不經濟なりしといふこれその婦人の年若くていまだ世帶に慣れざりしが爲めなり(以下次號)

○洋服裁方の原理(前號の續き)

正當ある形を裁んにハ手練を要するはいふこともなくさて右の最初なる二箇或ハ惣丈ケの知れ居るときハ第二のみを要せることにてまづ初學のものがいろはより習ふがごとくこゝにこの術のいろはより說き初め第一に寸尺の取り方を述ぶべし寸尺を取るものゝ外別に筆記するものあるときハ甚だ便利にして寸尺を取るものハその事のミに心を用ゆることを得らるるなり

第一○先づ尺紐を取りその先きを後背第七脊骨にあて左の手にて之を支へ右の手にて腰の下部にあてゝその寸尺を定めその場を動かさずして肩頭を眺め自ら肩頭なりと思ひ定めたる一點より此尺紐まで直線を引き肩の高サを記るし腰部の後背に至り望み次第の長サを定て寸尺を取り譬ば21—14—26と

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

記載すべし

第二〇 胸部の寸方を取るには尺紐を腋の下より後背に廻はし餘り堅く緊めずして尺紐を体に密着せしめその合ふところにて寸方を定め(假りに三十三インチと定む)尺紐を腕の下にて同位地に保ち後背に廻はし胸部の中心にて寸方を取るべし普通成長したる体にて初め取りたる胸部の寸方より長きこと二インチ半より三インチなりこれを一インチ半の長さと唱ふるは初めに取りたる寸方より一インチ半長しといふことなり扨て夫より尺紐を下げて腰部の周回の寸方を取るべし(これを廿六インチと假定す)また腋下より腰の中心部までを取り然る後に臀部の周回の寸方を取るべし即ち第一の寸方を記しわる下に 33—1½—26—7—42と記すべし

〇西洋禮式一斑(三十一號の續)

(會話の心得)假令自分こそ幸ひにして氣軽なればとて始終談戯のみをいふべからず

人に對ひ咄をなすときは常に先きの人を見るべし然れども決して凝視るべからず

社交上會話に臨み差支へなき爲めに普通流行する諸新聞雑誌を讀みその事をよく覺えおきまた歴史上の事責めて近年の事柄だけなりともよく覺え居ること必要なり

自ら知らざる事に就てその事を知らんと欲するときは兎も角も若し然らずしては知らざる事につき決て人と話しすることあるべからず故に平生に於て踏舞も少しなし唱歌もすこし歌ひ書も少し書き芝居のことに至るまでも少し心得置くときは交際上大なる過ちはあらざるべし

〇反古曝

〇豊公民を使ひ給ふ　ある時諸國の人夫土木の功終りて國々へ歸へしやすべきかと伺ひたるにはいや歸すべからずさあらば我上洛して大佛を造營せんとてやがて大佛を建て玉ふとかや太閤の風儀はよろかくの如しと（老談一言記）按ずるに貝原氏云勉むべきことを勤めずして臥ことを好み身をやすめ怠りて動かざるは甚養生に害あるべし安座し身を動かさゞれば元氣めぐらず食氣とゞこほりて病起る食後には必數百歩々行して氣をめぐらし食を消すべし父母に事へて力を盡し君に仕へて忠に勤め朝は夙く起き夕はおそく寐ね民各々我家事を能勤め怠らず其中士たる人は幼より書を讀み手を習ひ禮樂を學び弓馬を專らに武藝を習ひて身を動かすべしと養生訓にいへりかゝれば豊公もさすがに飽暖逸居をさせまじき御意にやとぞ思はるゝ(提醒紀談)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎新作物語

〇巣守の妻　第三回（つゞき）　春のや主人稿

それがアノウお知交の始元で。これから其書生さんに。小杜新作さまに……お心安うなるにつけて。色々お話をいたして見ると。新作さまトおつしやるお方ハ元々アノウ存じてゐたお方で。互ひにチヤチヤと驚駭しまして……これからアノウ先月になりまして俄に東京から電報が來て。新さんのお嚴父がおなくなりなされて。夫で新さんも狼狽て俄に東京へ御出立なされ。わたしハ悲しくッて心細くッて。御出立の前の晩に。ソッと新さんのお部屋へ往つて泣いて色々と申しますと「もう一年ほど辛抱してゐな。そのうちにハ如何かしてやる。勿論東京へ着次第に。よく／＼養母へ此事を話して。兎に角安心をさせてやる」ト。まことに頼母しい新さんのお言葉。其晩ハ泣明して翌日ハ眼も赤アくはれて面を見られるのが恥かしさに。虚病で一日中寐てばつかし。それから今月のはじめになつても何の音沙汰も郵便も來ず。養母もうす／＼ハ二個の……わたしの容子を見て氣取たのと見えて。それでも別段に證據ハないゆゑ。それとあてつけてハ申しませんけど。それハ／＼意地のわるい非道な邪見な無理をいつて……わたしハ苦痛となつかしさにソッと家を脱出して……新さんにお貰ひ申した大事の三圓を路用にして。やつとの思ひで東京へハ來ましたけど。途中で所書をなくして仕舞ひ。わたしハ字がちつとも讀ませぬゆゑ。いざとなつた時になつて他さまに讀んで貰はうと思つて大事に持つて居つた宿所書を。どこでどうしてか落して仕舞ひ。木から落た猿どうやら。新橋とやらいふ所から無暗に北の方へあるいて來まして。なんだか熱鬧な廣いとこへ。夢中でウッカリと出ましたころにハ。日陰もだん／＼に昏うなつて鐘が耳の傍でゴーンとなる。お腹ハすく悲しくハなる。如何しやうかと涙ぐんでゐますと。當今の氷屋の旦那さんが何處かの歸りがけに通りかゝつて。「おまへハ何處から來た。如何したのだ。」ト地獄で佛さまのやうなお言葉。ざつと身の上をはなしましてこの晩氷屋へとめてもらひ。段々來歴を話しますと「それハとんだ心得違ひだ。よくつても非道でも親ハ親だ。親にだんまりで出奔するとハ齢に似合はない大膽な振舞。どういふ駁雜た理由があらうとも郎の後を追ふて東京へ來るとハ。それハ不屆きな悪い事だ。早速大坂へ歸るがよからう。余も斯うなつちやア關係だ。路用ハ兎も角も立替てやらう。」ト

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

嬉しいやうな悲しい意見。「仰ハ無理だとハ思ひませんけど。折角憂いつらい思ひをしてヤッと東京まで來たのですから。せめて新さんの……「あの方」の居所がわかるまで。如何なつらい事も否とハいひません。どうか少との間大坂へハ内々で。貴店に女中にしてお置なされて」ト泣いつ口説いつして頼みましたれば。旦那さんハ情ぶかく。ヲれでハ五六日ハ兎も角も。ダが巡査さんが嚴しいから七日とここに置く譯にハいかん。早く歸るとも歸らんとも。しつかり肚の中をきめるがよい。じつハ女房が病氣の事ゆゑ。無人で内々ハ大困却。定めし慣ン事で仕にくからうが。それじやア何となく手傳ッて貰はう。隨分人通りも多いことゆゑ。三

五百四十一

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

日四日と經つうちにやア。尋ねる書生さんが通るのもしれぬ。始終店に居て見張るがよいトろれのふ氷の名を敎へて貰ひ。店でお給侍をしてゐながら。もしや「あの方」が通りハせぬか。ト一生懸命に見張ッてゐても。どう〳〵六日目の午過までも似たよな人さへも通りませず。明朝ハどうあつても出立ンければならん。マア如何爲よかトかなしくなり。何だか死ンだやうになッてゐますと。フット奥さまがお休みなされて。あの隱居さまといろ〳〵のお話。チヨッと耳について小杜といふお名前。扨ハと氣をつけて聽いてゐますと。旦那が病死なされたので伜を大阪から呼寄れトあの隱居さまのお言葉といひ。迷ひかゝりませぬが「あの方」に似たお貌。チヤッと傍へいつて聽たいハ山々ダけれど。間が惡さにもぢ〳〵して。どう〳〵お二個がお歸りなさるまで。何よも得い云といで悔んでもかへらず。俄に店先から後を追ふて見まれど。どちらへお二個ハおいでなされたか。まるきり影形が見えませんので。わちしもはんたうに。落膽してよく〳〵緣のない墓ない身の上。薩張思ひ切てしまひたいと……どうしても矢張思ひきれず。旦那さんにさう申しまして。さつきの斯々いふお客さまハどうやら手掛のと思はれますから。どうか旦那さんお慈悲ついでに。もう五日ばのり十日ばかり。こゝに斯やつてお置なされて。ト半分泣ながらに賴みますと旦那さんも詮方なしに。それじやアもう三日もう四日と。ツイ今日で三十日あまり。願ひが叶ふてのう今日はのらず嬉しや奥さまにお目にかゝり。やッと「あの方」の手懸りもわかり。こんなうれしいことハありませぬ。どうぞ憫然だと思しめして。奥さま。「あの方」のお邸をも。お敎へなされて」トかきくどき。淚にのきくれての物語。こなたハ信切なる性質にもわふねど。さりとて人情ハ人間並。ことよハ女同士の淚もろく「ろれハ可憫な身の上だヱ。幸ひわたし事も土用の見舞に。その小杜さんへまゐらねばならず。宅で聞たとてもたしかにハ忘れぬ。明日にもでのけて也く積りだから。一まづ氷屋へ歸つておいで。明日の夕方か明後日の朝にハ。キッと吉左右を聞す程に」トやう〳〵說得して歸してやり。けふしも此事を相談せばやと車で小石川へ來たりしなりけり

例のペチヤ〳〵たる幕なし話。これが平生のをり捌なりせば越野ハじれつたさに氣をもそぬき持病の血の道をもれてこすべきよ。意外な案外なおもひよらぬはなしに呆れて忙然と聽とれつゝ。いりえか双の目に淚を浮べて彼方の面をのみうちまもりぬ。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

◎家政要報

○僕婢の職掌(前號の續き)　洗濯女の職掌ハ洗濯屋へ送らずして内にて洗濯の出來るものをば自ら洗濯しテーブル掛リンチルのごときもの等總て洗濯を要するもの〻始末をなし毎週月曜日にハ洗濯屋へ送るべきものを集めてその中より夫々種類を撰り分け第一に白リンチルと染めたるとを分ち第二にハ寢臺に用ゆるシート床蓐とを撰み第三に木綿ものを撰り出し第四に毛織物類第五に汚れたる織物を撰み出しこれ等ハ一々撿査してインキの汚れものと酒類あるひハ菓物の汁のか〻りて汚みとなりたるものを見出し洗濯屋へ送る前に皆ろの汚れたる汚みを洗ひ落すべしリンチルに汚點あるときハ洗ひ桶に入れ微温湯を注ぎソーダ少しばかりを入れて明朝まで浸しをくべし他の汚れものハ四升の水に六十目ばかりの石灰を入れ浸しをくべし火曜日水曜日に洗濯をなし糊附をなす事と定めをき木曜日にハ火熨をなく事と定むべし金曜日にハ總て洗濯をなしたるものをよく疊み其日一日ハ空氣にあて翌土曜日に總て夫々仕舞入るべし(畢)

○帽子の洗濯　冬の黑き毛の帽子を洗濯するにハ微温湯よて洗濯ソーダを解かし少きブラシユを以て帽子を洗へバ汚れハ皆落ちて黑色剝げる事あり天日にて乾かしたる后舶來上等の黑色インキにて塗り乾そときハ新らしくなるなり

○呉服類の直上　夏物ハ追々によく賣れたるがゆゑ商店に持品少くなり木綿ものハ先頃最も安きときよりは殆んど三割貴くなり絹物類も生糸相場の貴きが爲め三割方直上げをなし舶來唐物類も外國爲換相場の下落せしが爲め凡そ一割のたも引上げたるよし

○鷄卵　ハ毎年土用入りごろより多少貴くある事なれども今年は流行病の爲め魚の代りに卵を食ぞるもの多しと見え本月さし入りより三四割も貴くなり前に一個一錢位のものハ一錢六七厘となりたるよし

○青物と魚類　蕃薯の直段ハ一貫目上が十七八錢次が十四五錢にて昨年よりハ安し冬瓜は增々貴く葡萄も早ものハポツ〳〵出たり一房二三十粒のもの三四錢位ゐ魚類ハ總て貴く尺鯛の上等が七八十錢川魚ハ殊に貴し

○白米　ハ本月五日より改正にて一等米(舊上白)一斗二升一合二等米一斗三升三等米(舊中白)一斗三升八合四等米(舊下白)一斗四升九合五等米一斗六升三合

五百四十三

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎御伽草

○美妻醜男

むかし男ありけり顔のいと醜きをも思ハで朋友の妻の優れてみめ麗しきを戀ひわたりけり消息をも通ハせうちつけにもかきくどけど靡くさま見えずある日其女より今宵ハ必ず音づれ給へかし些少のまうけハ此方に用意し侍るをなど懇篤にかきたればいと嬉しと思ひて黄昏がたに急ぎゆきぬ女ハ待居たるさまにて酒とゝめ物語などし又玉突の遊びなどして夜も稍更けゆくに男ハ堪へずやありけむ少し恨みたる面もちにて久しく聞え知らせざる心の程ハ今更にくりかへさむも要なし主人公のおはせぬ今宵を待ちて斯く招せ給ふまいゆゑこそさふらふはめ疾から解けて語らせ給へといへバ女ハ微笑つゝ主人の物妬みの强きハ豫て知給ふらむされバ家に居らぬ時に迎へて遊びても疑ハるゝことなきハ君を措てハ他にあらじと思ひなりてなむ招き參らせけると答へしとか男ハいかに面なのりけむ

○七に置き申し候

入口に七に置き申候と記て貼てあるを見單衣を貸た男が腹を立て居る處へ借人が歸て來たゆゑ貸人ハ大聲におれの單衣をなぜ質に置たといへば借人の許しな顏をし七ニ質におくものの棚に置き申候と記たのだ汝ハ七夕の七の字を知らねへな

○數學問題

(甲)明治二十一年一月一日より英國グリニッチ天文臺子午儀の中心を經過する子午線より東經百三十五度の子午線の時を以て本邦一般の標準時と定めらるゝにより英國と本邦との標準時の差ハ何程なるや

(乙)或人一圓二十錢を出して米一斗二合を買ひ得たりといふ時ハ二圓に付何程の米を得べきや

○前號數學問題の答式

(甲)

$$2\overline{)5760}$$
$$1152$$

$5760-1152=4608$

$$2\overline{)4608}$$
$$2304$$

$2304+1152=3456$

答　大數三千四百五十六　小數二千三百四

(乙)

$\frac{4}{5}:1=48:x$

$$x=\frac{1\times48}{\frac{4}{5}}=\frac{5}{4}\times48=60$$

$60-48=12$

答　十二人

右答者下野松井とつ子東京岩見茂敏芝隱士

◎寄書

○婚姻弊害論(三十一號の續)

大嶋　盛造

(第一例)學士ヘミス氏ハ一千八百五十八年に於て米國醫學會

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

社へ報告して曰く従兄弟姉妹の相結婚せるもの五百八十組ありてこの人々設くるところの小兒二千五百七十八人なりしがその過半ハ全良の兒たるを得ず乃ち一百十七名ハ聾啞五十三名ハ盲目二百三十一名ハ蠢愚二十四名ハ發狂四十名ハ瘰癧病五十二名ハ畸形なり而して六百三十七名ハ早死せり云々（第二例）學士ホーウ氏が曾て英政府へ上申せし所に據れハ同系婚姻を結びしもの十七組ありこの人々擧くる所の小兒九十九人あり而してその中四十四名ハ蠢愚にして十二名ハ瘰癧病に罹れり但し各々一名の蠢愚を產せしもの六組二名の蠢愚を產せしもの三組四名ハ五組五名ハ一組なり云々（第三例）レサンブル氏が千八百六十七年佛國學士會院へ報告したるところに據れハ二十三組の同系結婚者ありこの人々より擧くる所の小兒六十五名その內十七名ハ瘰癧質十一名ハ聾啞七名ハ蠢愚十四名ハ發狂六名ハ畸形なり而して此等の母の內流產せしものすくなからず云々（第四例）ダブリン府よ於てモルツカン氏は同系にて結婚せしもの百五十四組ありてこの人々の生ずる小兒百八ありしがその小兒ハ悉く聾且つ啞なりしとを觀察せり（第五例）クペハプールのバキストン氏ハ百七十組の同系結婚中二百九人ハ各々聾啞兒一名を產し三十八組ハ各々二名を產し十七組ハ各々三名を產し一組ハ七名を產せしとを說明せり（第六例）近頃米國學士アルフレッド氏はチカゴ府中に於て六組の同系結婚者二組ハ各々一名を生せり而して一名ハ三ヶ月を經て死去せり又流產をなすと二回四組ハ十一名を產しその內三名ハ蠢動二名ハ瘰癧一名ハ萎黃病一名ハ狂なり云々以上の例を以て考ふれハ同系結婚の大害あると昭々乎として明かなり我國に於てもまたこの類多からん然れとも統計學の進步未た彼れのごとく精しきと能ハざるがゆゑに調査の方法もまた此のごとくに行屆かざるべきなり讀者諸君ハ以上の述ぶるところを看て如何なる感覺を生するや試みに我れの身上に於て自ら同系相ひ結婚したるものとせば必ずや寒氣膚へに生ずるなるべし

（以下次號）

○春の家大人の女學叢誌に筆をとらるゝときゝて　坂井石城

はるのやの花をうつして處女子が學の窓のかさしとやみん

○女學叢誌を祝て　坂井和歌子

未通女子かとる手もあへす繙きてうれしけによむ文ハ此ふみ

○朝顏　信乃　石和長麿

はかなくも結へる露をよすかにて盛みしかき朝かほのは那

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

驛遞局認可

廣告

英學獨習日誌

紙數廿五ペーヂ
内外定價金十錢

右ハ英學獨習ノ良法ニテ發音ノ良法文字組織ノ敎ヘ意譯ノ体裁等苟モ英學修行ニ必要ナルハ擧テ洩サス加ルニ英人博士両名ノ加筆アリ第四號迄已ニ發行前金御送致次第送本スベシ且又安價獨學ノ便方アレハ同盟金五十錢ヲ送致セラルレハ半價ニテ郵送ス尚ホ規則書ハ郵劵二錢ナリ

英學作文修辭書

ソワケンボス氏著

定價金壹圓五十錢
郵税廾二錢

右ハ英文章ヲ綴リ英語學ヲ修ムルニハ未曾有ノ珍書ナリ初學ヨリ高等學生ノ參考書ニ必要ノモノニ付特ニ揚ケテ世ノ便宜ニ供フ前金高御送致アレハ何時ニテモ送本スベシ可相成ハ書留料六錢ヲ添ラルベシ

右ノ外英學原書及ビ獨學書ハ舶來和制共御好ニ應スベシ定價等ソノ御照會ハ雖複葉書タルベシ

速記法楷梯講義錄

全部五冊　一冊定價金十錢郵稅二錢

三百部ヲ限リ六十錢前納ノ諸君ニ限リ配付スベシ第二冊目迄已ニ發兌

右ハ傍聽筆記學獨書中第一等ニ位ス則チ疑點質問ハ勿論苟モ敎師ナキノ憾アル點ハ列チ引キ詳細ニ講義セラレタルヲ綴リテ冊子トナシタルモノナリ

十九年七月

大阪西區下江戶堀丈齊橋東入

英學獨習日誌社

前書々籍代價等郵劵代用ハ一割增

●西洋束髮秘傳　附　化粧秘傳

舊東京大學敎授櫻井省三君閱　伊藤重固君譯

改正定價四十錢

右ハ發兌以來大に世間の好評を得て多分に販賣致候處尙束髮贊成諸君の便利を計り今般壹千部を限り前記の低價よて賣捌候間陸續御購讀を乞ふ

賣捌所　神田團々社支居

和漢古今名家詩文　圭玷新評

第五十三集　八月廿日發　定價五錢

右ハ元來邦人ノ詩文ヲ删評シタルモノヲ揭ケ來リシガ本集以下邦人ハ勿論文ハ韓柳歐蘇詩ハ李杜韓白等漢土ノ名家ト雖ヒ苟モ瑕瑾アルモノハ嚴正ヲ加ヘ大ニ詩文講究ノ便ヲ開カント ス且集中ニ文藝雜話典故釋疑西洋英傑傳課題詩文等ノ諸篇ヲ設ケ頗ル修正ヲ加ヘタレハ盆購讀アランコヲ希望ス

發行所　東京神田區雉子町　團々社

大取次所　大坂備後町四丁目　北村彥助

舍告

本誌代價表

	正價	此郵稅
壹冊	金四錢	壹錢
拾冊	同金三拾八錢	同拾錢
二拾冊	同金七拾五錢	同二拾錢
三拾冊	同金壹圓拾錢	同三拾錢
四拾冊	同金壹圓四拾錢	同四拾錢

但シ東京十五區內郵稅不申請

本舍は御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ雜誌配達不仕事に相定候に付御注文の節ハ必ず代價郵稅共郵便爲替又ハ通運便にて御送附あらんことを希ふ●郵劵代用ハ壹錢切手よて一割增ー●郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込み其爲替劵と本舍へ御送附可被下候　但し東京十五區內ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

發行所　東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地

積文舍

持主兼印刷人　松本義弘

編輯人　初鹿野鍬五郎

女學叢誌大賣捌

東京芝區愛宕町一丁目三番地	修正堂
同　神田區淡路町	巖々堂
同　神田區佐柄町廿一番地	東海堂
同　日本橋區新葭町	良明堂
同　牛込區肴町十七番地	活神堂
同　芝區愛宕下町二丁目	高梘堂
同　蠣売町貳丁目	信文堂
同　本鄉區本鄉元富士町二番地	盛春堂關田
同　同　本鄉春木町貳丁目	解明堂
同　牛込區牛込樂神町	積善堂
大坂府備後町四丁目	岡嶋支店
千葉縣千葉本町一丁目	立興舍
山梨縣甲斐常盤町	内藤傳右工門
藝州廣島大手町一丁目	早速社
江州彥根西内大工町	新々堂
陸前國仙台大町四丁目	木村文助

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY